

なにわ名物 開発研究会 NEWS

＜第22号＞
2007年5月17日発行
発行
なにわ名物開発研究会
編集 広報部



●本部
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
TEL・FAX (06)6213-5554
http://www.naniwa-meibutsu.com/
●事務局（会議や諸事連絡）
大阪市中央区本町橋2-23
第七松屋ビル1231
TEL (06) 6947-5260
FAX (06) 6947-5254

入会について

- 入会金■
10,000円 〈正会員〉
5,000円 〈協力会員〉
- 年会費■
36,000円 〈正会員〉
12,000円 〈協力会員〉

R100 (古紙100%の再生紙を使用しています。)

ジャパンベンチャーアワード2007 野村代表が受賞

我がなにわ名物開発研究会の代表幹事、野村育郎さんが創業ベンチャー国民フォーラム主催の「ジャパンベンチャーアワード2007」企業家支援部門において、創業ベンチャー国民フォーラム会長表彰を受賞しました。その模様をオタギリがリポートします。



よーわからんけど、
すごい賞を受賞!!

アメリカ村の会の森本啓一さんの推薦を受けて、この賞の存在を知ったのが平成18年11月。書類審査や面接審査を経て、最終審査にノミネートされました。発表は平成19年2月2日。ついにその日がやってきました。赤坂プリンス

ホテルのコンベンションセンター「五色」には、企業家部門ノミネート者8名、企業家支援部門ノミネート者5名のほか、晴れの舞台を一目見ようと500名以上の人が集まりました。当会からは、NPO法人雅夢の内田さんと、私株式会社道頓堀スタジオジャパンのオダギリが参加しました。会場は、アカデミー賞よろ

しくレッドカーペット。そして壇上ではプレゼンテーターがハサミで封を切って各賞の受賞者を発表します(この緊張感、なにわ大賞には無いかも)。静まり返った会場で、各部門の奨励賞から紹介されていきます。緊張感が高まる中、一人ひとり発表されるたびに、会場はどよめきと大きな拍手に包まれます。

受賞の瞬間、カメラのフラッシュ越しに見た代表幹事の顔を忘れられません。今後ますます全国の目標とされるような活動を行ってもらえるよう、我々メンバーがサポートを行っていかうと心に決めた瞬間でした。

「ああ、野村さん。いつ発表されるねん」。内田さんと二人、手に汗を握っています。「なにわ名物開発研究会、野村育郎さん!」ついに、名前が読み上げられました。企業家支援部門の3位に当たる賞です。「ちよつと悔しい」。ここまできたら、経済産業大臣賞を取って欲しかったのが本心ですが、贅沢は言えません。

受賞の言葉

「ベンチャー」という言葉とは縁が遠いと思っていました。受賞式で「野村さんのされていることは立派なベンチャー支援ですよ」と、選考委員のお一人、三鷹市立図書館長をされている関幸子さんから声をかけていただき、素直に嬉しさがこみ上げました。

固有の歴史や文化に注目して、ひとつずつ成功事例を積み重ねていきたい。

代表幹事 野村育郎

関さんはまちづくりの先進地の東京三鷹市で、まちづくりTMOの中心メンバーとして活躍された人だったからです。

選考会でも、「一番この会の恩恵に預かったのは私自身」だと答えてきました。町衆自らが主人公、中小零細の商業者・事業者がアートやクリエイティブ、専門家や大阪を愛する文化人、行政関係者の方々とともに『大阪を元気にする』ことを目標にさまざまな活動を展開してきました。その原動力は、私たちそれぞれが元気になることです。

異業種・異分野のネットワークを大切に、しなやかな連携をする。利害より理念を優先し、大阪

なにわ名物開発研究会の10年の歩みとそのコンセプトや実践が正しかったことを確信し、誇りを持って賞をいただきました。みなさんも、積極的にドンドンこの会を叩いてください。強く叩けばそれだけ大きく返ってくるベンチャースピリットがなにわ名物の「いちびり精神」なのです。

JAPAN
Venture
Awards
2007

魂はベンチャー・スピリット
心は、まなまのこころ



リポート担当の
小田切聡さん

ジャパンベンチャーアワードは、全国から他薦によって選ばれた起業家・起業支援家を毎年表彰している表彰制度で、今年で6年目を迎えます。つまり、なにわ名物開発研究会と言うところの、「なにわ大賞」です(我々の方が歴史が古い!)ベンチャー起業家や支援家が書類審査や面接審査など、複数の審査を経て、本賞を受賞します。こうした厳しい選定過程を踏むことで、全国のロールモデルとなりうる起業家・起業支援家だけが表彰されるのです。



推薦者の
森本さん(左)と野村さん

一般例会
11月20日
講演&プチ懇親会
会場/難波生涯学習センター

大阪商人あきんどは、
いったい何を忘れたのか

歴史に見るホンモノの大阪商人とは。いったいいつ、大阪商人は本当の商いを忘れたのか。間違った大阪の間違った合理主義。安く売って喜んで

いる今の大阪ビジネス…。
11月は、講師に「大阪モダン新聞」主筆・古川武志氏を招き、大阪あきんど。歴史的考察を行った。氏は執筆業の傍ら大阪市の編纂も行っており、大阪あきんど文化の伝承者でもあるが、現状については非常に嘆いておられる。



このコーナーの原稿は、有限会社なにわ創信舎 原テルキが担当しました。
（マーケティング戦略アドバイザー）

って行えという意味だ。そして使うときは社会にドンドン還元する。特に大阪にはタニマチ精神があり、文化や芸術、相撲などで言えばスポーツなど、の協力でポンツと金を出してきた。これが大阪の「だんさん精神」である。そういう精神の欠如が結果的に、大阪の凋落を招いていると喝破されたのである。

参加者は皆一様に目から鱗を落とし、懇親会の後にミナミの街に繰り出し、その夜有り金すべてを「きれいに使った」。…とは、残念ながら聞いていない。



▲「モダンシティ」たびたびでは、「大阪楽団顧問・歌う指揮者」の古川武志さん

参加者より



「大大阪」この言葉を知ったのは、この会に入ってからです。かつて大阪にそんな時代があったのかと妙に感心しています。大阪府郊外の古墳に囲まれて、土器を拾って遊んだ育った自分には、意外に近代史の方が遠い存在です。小学校で今回の例会のような授業があればいいなあと思いました。

社会保険労務士 所信昭

特別例会
12月26日
講演&懇親会
会場/大和屋本店

大阪学実践講座
肥田先生のなにわ今昔話



「大阪を語らせたならああいふ人は、ほかにはいてはりませんな」と、人間国宝・桂米朝師匠に言われたお人が、月例会に待望の登場となりました。肥田皓三先生です。道頓堀河畔の大和屋本店さんが会場だったこともあり、島之内界隈の今昔話を皮切りにお話は始まりました。参加者は、当会の会員をはじめとして「オダサク倶楽部」のメンバーなど、多士済々の顔ぶれ。満員御礼、立錫の余地もないほどの大賑わいとなりました。



12月の例会にあわせて肥田家の正月メニューの紹介など、季節感も盛り込まれたお話で、旧きよき大阪を満喫できたひと時でした。講演終了後は、大和屋本店さんご自慢の料理を囲んでの懇親会を開催。道頓堀川の夜景を眺めながら「なにわ情緒」にたつぷり浸った夜でした。



このコーナーの原稿は、株式会社せのや 野村章徳が担当しました。
（代表幹事）



このコーナーの原稿は、OHKUMA企画 大熊章徳が担当しました。
（事務局長）

参加者より



私は、なにわ名物開発研究会に入会しまして今年の5月で1年になります。新年互例会でお会いするのが初めての方が多く、皆さんの大阪人パワーに圧倒される面もありましたが、楽しい時間を過ごすことができました。今年は、大阪人パワーに圧倒される事無く、ガンパって行きたいと思います。

株式会社戎大黒本舗 植村甚氏

参加者より



12月は忘年会を兼ねたこともあって、予想以上の人数。前日・当日の参加申し込みも多く、人数調整に嬉しい悲鳴(?)をあげました。会場の大和屋本店さんにもご協力頂きなんとか開始。肥田先生のお話が始まると、ゆったりと昭和20年以前の「なにわの良き時代」へ。30年生まれの私にも、なぜか懐かしく感じる大阪の風景。慌ただしい師走に、ホッとしたひとときでした。

有限会社アシスト 山下敦子

特別例会
1月23日
新年互例会
会場/蓬莱パンチャン

2007年・新年互例会
厳かに楽しく開催

第一部は、難波八阪神社にて「お祓い神事」。会員15名が参加し、お神楽、代表幹事による玉串奉納が、厳かに執り行われました。



▲Y姉妹、いつもご参加ありがとうございます。そろそろ、ご入会? ▲賞品を手にして笑顔の参加者

参加者より



「志をもった非凡なる凡人になっていただきたい」。松崎館長が生涯の師と仰ぐ、はこだて未来大学の元学長の言葉と、その内容に感銘を受けました。若者が夢を育てることができる社会のシステム化の話では「若者が育つ＝大学・地域・企業」⇒これらをサポートする大人。しかし私自身、どちらかと言うと若者に無関心な大人…。今後は社内の若手との接し方を見直そうかと思います。

株式会社タカチホ 市川尚人



▲懇親会は、当会会員の辰巳弘子さんの店「ガゼボ」で開催。いつも美味しいお料理をありがとう。



意外とお茶目な松崎さん



このコーナーの原稿は、株式会社タカチホの野村育郎が担当しました。(代表幹事)

ホールや会議室があるのは知ってるけど、大阪府立青少年会館って、どんなところ？じつは単なる会館(建物)ではないのです。昨年4月館長に就任した松崎光弘さんは、「大阪の若者と街にチャレンジと成長の機会を創る」と、日夜全

すべては若者のために
明るい未来のために

一般例会
2月20日
講演&プチ懇親会
会場/大阪府立青少年会館

力投球中。この月例会のために作成したパワーポイントで、自らの生い立ちから学生時代、地球物理学を専攻する大学教授から現職への転進と歩み、その思いを熱く語ってくれました。

チャレンジプロデューサーとしてインタナショナルな取り組みによる地域活性化に取り組み、「正義のヒーロー」関西戦隊として被り物をして若者たちの輪にも入っていきま

会員自己紹介

白ハト食品工業株式会社
〒570-0083
守口市京阪本通1-4-10
tel 06-6997-0151
fax 06-6997-0118
http://www.shirohato.com/

「この世女の好むもの」 芝居 浄瑠璃 いもたこなんきん

私どもは、創業以来この江戸時代の川柳にあやかっ

ています。「たこ家道頓堀くくる」のたこ焼&明石焼、「おいもさんのお店」らぼっぱのポテトアップルパイ&スイートポテトは、その一例です。そして私どもは、お客様が本当に求めているものは「商品」ではなく、「商品を通して小さな幸せのモト」だと考えます。買



▲道頓堀本店 (松竹座前)



▼ポテトアップルパイ

った時のワクワク感、帰った時の家族や恋人の笑顔、食べている時の一家団欒、心の安らぎ、食べた後の満足感：などなど。さらに近年は食の大切さ、農業の楽しさを伝えていきたいと、さつまいも苗のオーナーを募集する「おいも株オーナー制度」をはじめました。これからもこの大自然が育んだ、体に良くて親しみやすい「いもたこなんきん」を通して、お客様の幸せの役割に立ちたいと思っています。

戎大黒本舗は、栗おこしを

「こないしゃはったら」

石山史雄の
こなりこまはつたるとびす
【第8回】(株)戎大黒本舗

はじめとして、大阪銘菓の和洋菓子や阪神タイガースシリーズ菓子の製造販売を行っている。栗おこしは大阪を代表する伝統的なお菓子であり底固い需要があるとはいえず、消費者の嗜好の変化により下降線は否めない。その栗おこしを新しい感覚で、今風にアレンジしたお菓子が「浪速菓風」で、今や大阪駅のキヨスクや大阪空港売店のヒット商品となっている。その開発には長年の並々ならぬ努力があったという。大阪華風に続くヒット商品の開発が、いま、若き後継者、植村甚氏さんに課せられている。

テーマは身近にある。大阪産の素材も探せば数多くあるし、製造法、地名やいわれなどで、新しい味・デザイン・ネーミングも生まれる。社名の戎っさん、大黒さんは商売繁盛・五穀豊穡の神さんである。これを上手く使わない手はない。新商品のイベントなどに使えば面白い。伏見稲荷の参道でおみくじ入りの味噌せんべいをおくじ入りの味噌せんべいを売っている店がある。商売繁盛のみやげ品としていつも賑わっている。参考にすべき好事例となろう。

企業DATA
事業内容/菓子製造販売
大阪市北区天神橋3-8-15
TEL 06-6351-1894
www.ebisudaikoku.co.jp

— 掲示板 —

新入正会員(1月~4月度)
■株式会社キャナック
登録者名/難波真理子さん
住大阪市河内長野市千代田南町18-5
TEL 0721-52-5991
通販事業、動画コンテンツ配信事業、商品企画開発
■松崎光弘さん
大阪市北区西天満3-1-25-807
TEL 06-6362-0232
教育、人材育成、アートインキュベーション

登録者名の変更
■小田切聡さん
「西代官山クラブ」名義を「株式会社道頓堀スタジオジャパン」に移行
大阪市中央区西心斎橋1-9-15-401
TEL 06-6120-3185
FAX 06-6258-4470
観光サービス

■日野泰秀さん
「株式会社ARS」名義を「ヒノメディカルプラン」に移行
兵庫県芦屋市平田北町4-4-205
TEL 0797-34-2592
FAX 0797-34-2592

移 転
■株式会社苗屋
〒555-0012
大阪市西淀川区御幣島1-15-28
TEL 06-6477-7761
FAX 06-6477-7762

連絡先変更
■北出芳久さん
大阪府立産業開発研究所
調査研究部 産業調査研究グループ
TEL 06-6947-4362
FAX 06-6947-4369

※事務局に連絡があった情報を掲載しています。



活動報告 商品開発部

「現地研修見学会」実施

とき/12月9日(土)
ところ/京都・東映太秦映画村 嵐山 嵯峨

午前中は東映太秦映画村へ。ここで数々の名作が生まれたのかと思うと、セツトやアトラクションもなかなか楽しめました。参加者が最も盛り上がったのは、「映画衣装写真館」。

手頃な価格と服を着たままノ一メイクの手軽さで、岡つ引き、股旅、花魁などの扮装でポーズを決めました。場所は変わって嵐山・嵯峨野 野界隈へ。ちょうどこの日は、

周辺一帯のライトアップイベント「京都嵐山花灯路」の初日。午後5時の開始を待つ人が、雨の中、渡月橋周辺に集まりだしました。雨霞みにライトが当たって、見慣れた嵐山も何とも趣のある景色に。オフシーズンとはいえ、京都の集客力はすごいです。

さて、今回の研修見学会のメイン企画であった「京都みやげ品評会」についてもふれておかなければなりません。各自1000円の予算で「コレは」と思う京都みやげを買って、批評しあうものです。参加者が買ったものの中から、一部を紹介しします。皆さん、さ

すがに肥えた目で個性あるおみやげを選ばれました。印籠シール、竹炭粉末入り歯ブラシ、京ちりめん細工(野菜ぬいぐるみ)、豆腐クッキー、ポストカード(花の見所紹介付き)、黒おたべ

結局、一番のお土産は「扮装写真」で意見が一致。当日は案内役の北出が大遅刻でご迷惑をおかけしましたが、皆様のご寛恕を得まして、京都の一日を満喫できました。ありがとうございました。とっさになりました。



このコーナーの原稿は、北出芳久が担当しました。(商品開発部)

活動報告 ビジネス交流部

人生設計のヒント満載！

11月1日に勉強会を開催

総合コンサルタントの青木章氏に講師をお願いしました。幅広い経験談やエピソードを交え、人生の構築、設計、フィナンシャルアドバス、保険の



▲当会会員の株式会社ワイ・イー・アールの青木さんの著書「伝説のセールスマン〜生保のトップ代理店ワイ・イー・アールの成功への軌跡〜」

考え方、それに人材育成、モチベーションの保ち方などのノウハウも教えていただきました。各人の生活状況や環境に合ったきめ細かなコンサルティングをされており、参加者の質問にも丁寧にお答えいただきました。今回の勉強会は堅めのテーマでしたが、「非常に内容が濃く勉強になった」と好評を博しました。多くの会員さんが人生を振り返り、設計していただけるよう、今後もこのような機会を作りた



このコーナーの原稿は、株式会社アイトック 伊藤二郎が担当しました。(ビジネス交流部部長代行)

活動報告 総務部

メンバーの結束が固く 毎月必ず部会を開催

総務部は石川部長のもと、事務局と協力して、会員の皆様への各種サービスを行っております。月例会をはじめとする事業やイベントの「縁の下」の力持ち「運営スタッフ」として、部員が自主的に積極的に活動しております。部会もマメに開催し、12月6日、1月18日、2月26日と、毎月集まっています。また、部会のおと

は、懇親会で親交を深めています。各事業やイベントに関



▲部会のおと懇親会も楽しみのひとつ。左から時計回りに、石川部長、仲井さん、柳楽(なごら)さん、水谷さん、松本副代表。写真を撮ったのは誰?



このコーナーの原稿は、松本好正が担当しました。(副代表幹事・総務部)

活動報告 広報部

部会の開催はナン 編集秘話はアリ!

前号で、部会を開催できていないことを猛省したはずなのに、未開催のまま年度末を迎えることになりました。「なにわNEWSだけでも早く発行を」との想いで、会員さんには早めに原稿を依頼しました。3月初旬に8割ほどの原稿が揃ったところで、大事件! サムネットの和田さんが骨折して入院することになったのです。田中部長は「他の者にやらせませう」と、頼もしいひと

折して入院することになった



参加者より



株式会社せのや 福岡武志

小雨の降る中、「太秦映画村→嵐山」という定番の観光コースながら、意外といっは失礼ですが、とても楽しい一日を過ごさせていただきました。締めくくりの「京都みやげ品評会」では、みやげ店の立場として『お客さんの視点』を改めて勉強させていただきました。ただ、北出さんの報告どおり、一番のみやげは「扮装写真」だったのですが…

股旅(福岡)



このコーナーの原稿は、灰谷幸が担当しました。(副代表幹事・広報部)